長室通信



平成25年度 第 18 号

下野市立南河内第二中学校 発行者 横

H 2 6. 1. 1 0

新年明けましておめでとうございます

平成26年が、二中と皆様に佳い年となるようお祈り申し上げます。 今年の干支は午です。年賀状ではたくさんの個性溢れる馬と出会うことができました。 初詣では、二中のますますの発展を祈ってきました。



休業明け集会の話から 1

平成26年は、午年です。

12支の中で馬は、農作業などの労働に使われたり、馬車などの乗り物の動力になったり、人の生 活との関わりが強い動物です。また、干支で書く午は最も生命力が強く、太陽が南の空に上り詰め満ち足りた状態を表しているそうです。正午という言葉に使われるようにお昼の12時、方位で言うと 真南も指します。

初仕事

元旦に、神棚や氏神さまなどにお供えをし、新しい年を祝うと共に、家族が健康で暮らせるように 祈りました。また、初日の出の御来光を仰ぎ、家内安全と二中の益々の発展を祈りました。

1年中で最も寒い時期

大寒(20日)に向かい、益々、寒さが厳しくなります。毎日が寒く空気も乾燥し、強い北西風が 吹くこともあります。カゼやインフルエンザが流行する時期でもあります。

学校生活では、1年のまとめの大切な時期

平成25年度は、開校20周年を意識した行事を展開しました。3年生を中心とした数々の学校行 事に於いて、多くの成果を得ました。皆さん、個人個人ではどうでしょうか。

- ・中学生として必要な学力は付いたか、
- 人として豊かな心を培えたか、
- ・将来を生き抜く体力は身に付いたか、など、

みなさんは、今の自分の努力の状況を見つめ、改善を加え、次年度への準備をする時期です。

各学年に期待すること

- ・3年生は、中学時代最後の良い思い出を作りながら入試を乗り切り、卒業式を迎えましょう。
- ・2年生は、新入生説明会の運営、大成功でした。立志式を成功させ、更なる成長を遂げましょう。
- ・1年生は、2年生3年生の努力する姿に目を向け、2年生に進級する心構えを持ちましょう。

各種表彰関係(12月25日表彰分) 2

【南河内第二中2学年選抜駅伝チーム】

・下野市南河内地区一周駅伝競走大会 中学生の部 優勝; Aチーム

特別賞; Bチーム 区間賞; 4名(Aチーム)

【国語】

- ・JA共済県下小・中学生書道コンクール半紙の部 佳 作
- ・山本有三記念「路傍の石」俳句大会 佳 作;



【サッカー部】

・下都賀地区1年生サッカー大会;第3位

【バスケットボール部】

・ 支部 1 年生バスケットボール大会

男子;準優勝 女子;優 勝

【第45回栃木県作曲コンクール】 優良賞;

「保護者からの学校評価について 3 〕

《 4 生活に関すること 》

Q;ご意見の要約

・充実した生活を送っています。

- 入学してから基本的な生活態度が良くなりました。
- ・携帯電話での「LINE」でのつながりが心配です。 ・先生や大人の前では仲良く、そうでないときには仲が悪いという状態があるようです。
- ・夏の制服の使用について、衣替えの時期など検討していただきたい。
- ・女子トイレ清掃の指導は、女性の先生にお願いしたい。

A;お答え

「LINE」の問題は、現在各方面で大きな問題になっています。本校では、学年PTAや保護者会な どで保護者への呼びかけをしたり、朝会や学年集会、学級でと、折に触れ不定期ですがこの半年、取り組 んでいますが、成果があるのかないのか難しいところです。このようなお答えや心配して情報をくださる 方がいらっしゃると言うことを考えると、生徒たちの問題として看過できない事態にあるということだと 思います。学校とご家庭で協力して更に指導していく必要がある事項です。夏の制服の使用期間や衣替え については検討してお答えします。女子トイレ清掃の指導は、改善したいと思います。

《 5 教職員に関すること 》

Q;ご意見の要約

・先生の資質の向上、感情のコントロールをお願いします。

・先生の言動の中に、子どもをバカにするような印象を与える言われ方が気になります。

・生徒と上手にコミュニケーションがとれるようにお願いします。

・授業中説教が始まるとかなり長い時間かかる先生がいます。授業を大切にして下さい。

・子ども達の言うことに耳を傾けて欲しいと思います。先生と生徒の信頼があって全てが成り立つ。 ・先生方も休養をとられ、心豊かに余裕を持って生活して、生徒たちに良い教育をして下さい。 ・二中の先生方が全員で一つになって取り組んでいるので、本当に恵まれていると思います。

A;お答え

教職員の資質の向上、指導力の向上は、学力の保証や生徒の健全育成の観点から最重要課題です。授 業力の向上、学級経営力の向上、生徒理解や教育相談の技術など、全体研修を定期的に実施したり個人研 究を行ったり、一人一人の資質の向上に努めていきます。

《 6 給食に関すること >>



Q;ご意見の要約

・成長期のため、給食の量が足りないようです。部活で帰りが遅くなるので、量を増やして欲しい。

A;お答え

給食のご飯やパンの量は、基準で決められた量です。また、副食に使われる食材も栄養価の観点から総 量が決まってきます。従って、一人あたりの量は増やせませんので、配膳の時の工夫や分け合うなどの工 夫で、食べたい人に多い量を確保していくようにすることが大切だと思います。できるだけ、無駄なく配 膳できるように指導していきます。また、増量についても意見をあげるようにします。

【 精進4 生きていることに感謝する 】

人は自分一人では生きていけません。空気、水、 れるようになってきます。生かされていることに感食料、また、家族や職場の人たち、さらには、社会 説し、幸せを感じる心によって、人生を豊かで潤いなど、自分を取り巻くあらゆる物に支えられて生き のあるものに変えていく事ができるのです。 ているのです。そう考えれば、自然に感謝の心が出! いたずらに不平不満を持って生きるのではなく、 てくるはずです。不幸続きであったり、不健康で合! 今あることに素直に感謝する。その感謝の心を「あ ったりする場合は「感謝をしなさい」といわれても!! りがとう」という言葉や笑顔で周囲の人に人達に伝無理かも知れません。それでも生きていることに!! える。そのことが自分だけでなく、周りの人たちの 対して感謝することが大切です。

感謝の心が生まれてくれば、自然と幸せが感じら

心も和ませ、幸せな気持ちにしてくれるのです。



